

ペン 俳句会 句会報(第三七五号)

令和七年十一月六日(木)

吟行、囁目。

今月は、新宿御苑で吟行。句会を、御苑近くの随園別館で開催。投句八名。出席七名。(欠席は晃也さん、良知さん、金魚姫さん)

宮原 凧

鳶紅葉水に映して揺れにけり  
街路樹の散り急ぐかに秋の風  
街騒(まちざい)や御苑に入れば秋の風

中村 晃也

菊花展皇室ゆかりの伝統美  
小春日や水輪重ねし夫婦鴨  
手を繋ぐ園児の列や金木犀

松田 一文字

彩りの苑に少なし冬隣  
ふっはりと浮かぶ紅葉の近づき来  
池沿ひをブルカの少女落葉踏み

新田 ゆふき

芝園の黄菊白菊円き丘  
秋薄日木ノ実をつつく大鴉  
秋草を分けて踏み入る小道かな

大津 そうかい

秋の暮池面へあぶく次次と  
偲ばるる陰の歳月菊花展  
踏まれたる銀杏数多無惨なり

安藤 晃二

秋日射し池面に浮かぶ御涼亭  
秋深む松のかしづく代々木の塔  
寝転んで桜紅葉の芝生かな

長尾 進一郎

秋深み御苑の森の静かなり  
秋深みこずえ赤や黄褪せにけり  
散り初めて増せる明るさ秋の森

西川 知世

識別番号古りし老樹の瘤の冷え  
江戸菊の名前連ねて菊花展  
開きそむ茶の木に小さき羽音かな

次回は令和七年十二月四日(木)。兼題は「小春日」(宮原凧さん出題)、席題は、西川知世さん出題の「焼」です。

追記